

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年2月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2278100249
法人名	医療法人社団藤花会
事業所名	グループホーム花平の郷
所在地 (電話番号)	浜松市北区引佐町花平725-1 (電話) 053-542-3587

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年8月22日

【情報提供票より】(19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数 18人
職員数	15 人 常勤13人, 非常勤2人, 常勤換算14.45人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(138,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1		名	要介護2		6 名	
要介護3		8 名	要介護4		4 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	81.8 歳	最低	60 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	引佐赤十字病院 奥山診療所 林医院 牧原医院 長野歯科 長田医院 藤野整形外科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、坂道を上った高台にあり、広い芝生の庭が温かい明るい雰囲気を感じさせる。共有空間のホールも芝の庭に面しており広く明るいので、利用者はホールで過ごしていることも多く、それぞれ好きな居場所に自由に過ごしている。利用者の生活観を大事にしたいという思いがあり、利用者が自分のできる役割を自然に持ち、支援すべきところには手を差し伸べている様子が窺える。開設当時から「地域の人と一緒に」を理念にし、積極的に近隣住民と交流し、野菜や花の差し入れを頂いたり、ホームから手作りおやつを持っていったりする等する間柄となっている。買い物やドライブなど利用者の希望で日常的な外出も多く、利用者の地元や思い出の場所を訪問するなど個別の外出支援も行われている。ホームの役割を十分に認識しており、今後の取り組みにも期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を全ての職員で話し合い、改善に向けての取り組みを確認し、マニュアル作りや学習会の実施等改善と向上に向けて取り組んできた。利用者本位のサービス提供に向けて意欲をもっているため今後の取り組みにも期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を全ての職員が一人ひとり行い、これまでの取り組みを振り返った。自己評価で課題となった点についても職員間で共有している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>訪問調査日までに会議の開催はない。しかし、10月から利用者や家族、地域自治会代表者、民生委員、地域関係団体代表者、市職員等により2ヶ月に一度、利用者の生活向上に向けた会議が開催されている。今後も定期的な開催で、出された意見をもとに運営にも反映させていくことにしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時には、職員から声掛けし意見や苦情を積極的に把握するように努力をしている。また家族が意見などを気軽に伝えられるよう、職員の顔写真やその日勤務している職員名を掲示するなど工夫している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りや運動会などに積極的に参加し、地位住民との交流が深まってきている。近隣住民とは特に交流が深まり、日常的に行き来する間柄となっている。今後も、地域の一員として自治会に加入するなどして更なる交流に繋がれるように期待したい。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「地域の人と一緒に」を理念の一つとし、地域密着の理念を持って運営してきた。地域密着型サービスが始まり、管理者がその意義を職員に伝え、理念の再認識を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に行うユニット会議で理念の各項目を見ながら確認するとともに、玄関等に掲示し、常日頃から職員自身で確認し、理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや運動会等に参加して地域住民との交流を深めている。近隣住民の配慮で、畑や農機具を提供されたり、野菜や花の差し入れをしてもらったりする関係となっている。また、ホームからも手作りおやつを渡したりと交流や付き合いを大切に考えている。	<input type="radio"/>	近隣住民との交流を深めているので、自治会にも加入し、地域の役割も担う等の取り組みにも今後期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員全員でこれまでの取り組みを振り返った。これまでの評価結果についてもユニット会議で確認し合い、改善の必要な事柄については、計画的に改善に取り組んできた。	<input type="radio"/>	定期的にこれまでの取り組みを振り返る機会を設けているので、これを継続し、更なる取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催するように検討しているが、訪問調査日時点では開催はされていない。	<input type="radio"/>	運営推進会議の意義を理解し、市町職員や地域住民、利用者家族等の参画を得て、規程を設け10月から2ヶ月に一度開催し、利用者の生活の向上のために話し合いが行われている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的開催される事業者連絡会に参加し、他事業者だけでなく、市担当者とも積極的に意見交換を行い、要望等も伝える場としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、行事予定や利用者の日ごとの生活状況を伝えている。玄関には利用者のアルバムが置いてあり、訪問した家族が見ることが出来る。家族の訪問時には、利用者の日ごとの様子や金銭管理状況等も伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、職員が声掛けし、要望や意見、苦情を聞いている。だされた意見や要望等を運営に活かすように取り組んでいる。また、苦情等が出された場合には速やかに解決するような仕組みが確立している。	○	玄関にはその日に勤務している職員名や写真が掲示されている。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や移動の利用者への弊害を良く理解している。法人内でも移動は極力避け、開設からの常勤職員の退職も少なく、馴染みの職員による支援が継続されて続けられている。職員間で何でも言い合える関係が構築されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で組織する研修委員会で、研修内容を協議し、定期的に研修を開催している。介護福祉士資格取得のための勉強会や現介護福祉士が講師となった職場内訓練(OJT)も定期的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び全国事業者ネットワークに加入するとともに、市内に同業者連絡会があり、グループワーク方式の勉強会やグループホーム同士で情報交換する等、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者家族の希望により、日帰りから1週間の体験利用を実施し、安心してサービスを利用できるよう工夫している。利用者一人ひとりの状況を勘案した段階的なサービス実施に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム内における日常生活から地域住民との交流に至るまで、利用者とはともに支えあう関係づくりが確立している。職員も利用者の尊厳を大切にするように留意して接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前から、利用者及び家族から趣味や嗜好、生活歴を把握するように努めている。また、日常生活の中からもそれを把握するようにし、把握した事柄は記録し、職員間で共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者が利用者の介護支援計画を全て作成するのではなく、利用者の担当職員が具体的なサービス提供内容についての計画素案を作成し、それを職員会議に提示し、利用者や家族の意見を反映させた介護計画の策定を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を6ヵ月とし、定期的な見直しを3ヶ月ごとに行っている。利用者の状況に変化のある場合は、計画の変更修正を適宜行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの特性を理解し、利用者一人ひとりの状況や意向に応じて、柔軟に対応している。利用者がしたいことが出来るように検討したり、ホーム利用前に生活していた地域にドライブに行く等、多機能性を活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望しているかかりつけ医への定期的な受診に同行し、必要な情報を説明している。かかりつけ医が往診してくれる等、良好な関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、利用開始時に家族に説明し、更に状況が悪化した時点で、医師や職員、家族に相談し対応している。これまでも、ターミナルケアの実践をしている。	○	ターミナルケアについては、様々な意向もあると思われるので、今後も利用者の意向に沿って対応されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉づかいについても利用者への抑制に繋がってしまうと考え、内部勉強会でも取り上げ記論を深めている。馴れ馴れしい言葉づかいにならないように留意し、利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている。個人情報の保護についても認識を深め、適切に取扱いように定めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペース、意向に沿った生活が継続して行えるように柔軟な支援を行っている。単調な生活とならないように留意し、その人なりに充実した日々が送れるように十分な配慮している。一人ひとりの意向を踏まえた柔軟な支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、食べてからの後片付けを、職員と利用者が一緒に行っている。職員も同じテーブルで利用者と会話を楽しみながら食事している。副食は外部委託業者からとなるが、月に2～3回は利用者の希望で、一緒に調理するようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望により毎日することができる。入浴時間も15時のおやつを終えてから消灯時間まで自由に入浴することができる。入浴も利用者の楽しみごとと考慮、入浴を楽しめるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物の取り込みや、配膳、食器拭き、野菜づくり、水撒き等その方の生活歴や心身の状況により役割が自然に決められ、職員と一緒にいる。また、趣味や嗜好を把握し、利用者ごとの楽しみごとにも取り組めるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事で月1回の外出行事を設けている他、日常的に散歩や買い物等で利用者のその日の希望により外出できるように積極的に支援が行われている。ホーム敷地内も広く、芝が植えてあり、居間から出て外のベンチでくつろぐことも多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することでの利用者への影響を十分理解しており、日中は一切施錠していない。利用者の行動に一切制限をしないで、職員が見守るように取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内の災害対策委員会が設けられ、避難方法や防災対策が検討されている。年2回の定期的に防災訓練も行われている。	○	あらゆる場面を想定し、地域関係者にも速やかに協力を仰げるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内で作成した献立により摂取カロリーを明記している。利用者の食事、水分摂取量はその都度記録するようにしている。食べた量はその都度把握し記帳している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くスペースを確保した共有スペースには、平屋建の天窓から自然な光が注がれ、利用者の居心地良い場所となっている。日中は、殆どの利用者が日中は好んで今居間で過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めの居室には、使い慣れた家具が持ち込まれ、好みの装飾が施されている。居室の名札は、利用者等の希望で名前のみであったり、大きさを変えたりと工夫されている。	○	今後もこれまでと同様に利用者の意向に沿った居室づくりが支援されるように期待したい。